

## 課題NO.4

# 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化

活動期間：令和3年度～令和5年度

対象者：農事組合法人あきう生産組合(役員8人)

チーム員：佐藤浩子、安達裕美、細谷和宏

# 1 課題の背景・ねらい

## (1)背景

- 設立：平成28年にJA出資型法人として設立（前身：秋保転作組合）
- 構成員：22人(理事7人、監事1人)
- 経営規模：水稲12ha、大豆50ha、そば25ha
- 排水不良地や土壌タイプの異なるほ場が多く、**水稲・大豆・そばの収量は総じて低い。**
- 大豆を中心に**鳥獣害が多発**し、収量に影響を及ぼしている。
- **構成員が高齢化**しており、**若い従業員の雇用を計画**しているが、優秀な人材を確保するため、魅力ある**労働環境の整備が必要**である。



環境保全米「清流育ち秋保米」

## (2)ねらい

- **水稲、大豆、そばの収量・品質が向上する。**
- **新規に園芸品目が試作される。**
- **人材確保のための労務管理について理解が深まる。**
- 数値目標：農産物売上高増加率  
R 1:基準年 0  
R 3:3%増 → R 4:5%増 → R 5:8%増

定性的目標



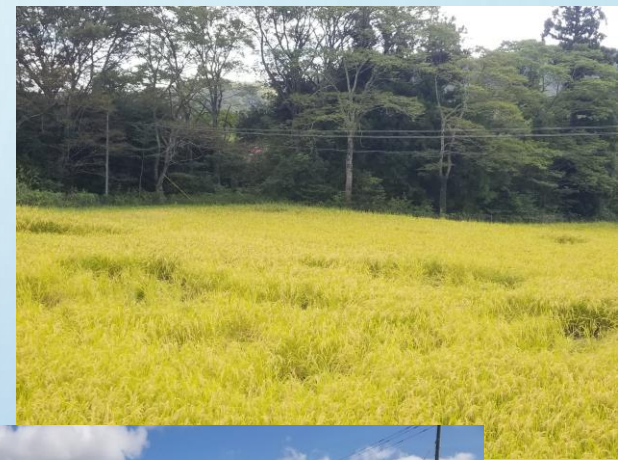
秋保在来そば

## 2 活動内容

### (1) 水稲、大豆、そばの安定生産技術支援



そば苗立ち状況確認  
調査(8/20)



水稲・大豆ほ場の調査ほ設置と  
生育調査(6/上～10/中)

水稲・大豆作振り返り  
検討会(12/24)



イノシシ被害のあった水  
田ほ場と鳥獣害対策打合  
せ(9/7)

## 2 活動内容

### (2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援



新規品目のたまねぎ



そらまめの生育・  
病害虫発生状況  
確認調査(6/7)



そらまめの定植指導  
(11/20)



ブロッコリー巡回  
指導(10/14)



ブロッコリー栽培講習会  
(8/19)

## 2 活動内容

### (3) 労務管理基盤の整備支援

現況の労働力・労働時間は  
どのようになっているか？

乾燥調製施設の導入  
計画の進捗状況は？

事業の継続・承継  
するには？

女性の労働力の  
活用予定は？

若い社員の雇用  
の計画は？

今後、経営規模は拡大  
される？

園芸部門の担い手は？

法人の形態はこのまま  
の農事組合法人？



**労務管理基盤の整備が不可欠**



農業法人ステップアップセミナー  
(1/7)



雇用管理勉強会  
(8/20、1/24)

# 3 活動成果

## (1) 水稲、大豆、そばの安定生産技術支援

- 水稲、大豆、そばにおける**収量が向上**した。

水稲 R1:405kg/10a、等級 1等 → R3:422 kg/10a、等級 1等

大豆 R1: 60kg/10a、等級 2～3等 → R3: 79 kg/10a、等級2等

そば R1: 24kg/10a、等級 1等 → R3: 53 kg/10a、等級1等

- 大豆では、**土壌養分バランスが作物に及ぼす影響について理解**され、令和4年度は、全面積で「苦土石灰」を施用し、**土壌改良を行う**。  
また、ほ場条件に応じてチッソ成分の異なる**基肥肥料の使い分けを実施予定**である。

# 3 活動成果

## (2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援

- 新規にそらまめが約15 a 作付けされ、492kg出荷された。今年も水田を利用して同程度の規模で栽培している。
- 秋冬ブロッコリーが露地及びパイプハウスで試作(約2.5 a 分)された。
- 新規にたまねぎ(1,000株)が試作された。
- 水田を利用して新規にいちじく栽培に取り組むことになった。



## (3)労務管理基盤の整備支援

- 雇用管理勉強会で、「やりたいこと」「できること（できそうなこと）」が明確になった。これにより、従業員の「雇用」に向けて前向きな検討が始まった。



定性的目標を**達成！！**

※「数値目標」はとりまとめ中で、2月末頃に確定予定

# 4 令和4年度の活動

## (1) 水稲、大豆、そばの安定生産技術支援

- 土壌分析や生育に基づいた栽培管理指導
- 雑草・病害虫の適期防除指導
- 排水対策・獣害対策等に関する情報の提供

## (2) 新規園芸品目の導入及び定着のための栽培技術支援

- そらまめの収量・品質を向上させるための栽培管理指導
- ブロッコリー等新規園芸品目の栽培管理指導
- いちじくの栽培管理指導

## (3) 労務管理基盤の整備支援

- 経営計画シミュレーション調査・分析
- 労務管理勉強会

定性的目標

水稲、大豆、そばの収量・品質が向上する。

新規園芸品目の導入及び規模拡大が図られる。

雇用のための受入体制の基礎が整備される。

数値目標

農産物売上高増加率 5%増  
(基準年：令和元年)